

阪神南地域ビジョン委員会

活動記録集



阪神南地域ビジョン委員会
兵庫県阪神南県民センター

□■はじめに■□

～活動記録集によせて～

この度、第9期阪神南地域ビジョン委員会の2年間の活動が無事に終了し、活動記録集を発行することができました。

私たちの活動推進に多大なサポートとご協力をいただきました全ての皆さまに、心より感謝申し上げます。

第9期の阪神南地域ビジョン委員会は平成30年4月に兵庫県知事から委嘱を受けた様々な年代の83名の委員とともにスタートし、「阪神市民文化社会ビジョン」の行動目標に沿ったテーマを掲げた7つのグループが、8期までの阪神南地域ビジョン委員会の伝統を引き継ぎつつ、様々な年代の委員の新しい目線や考え方を融合し地域の将来像の実現に向けて実践活動を展開しました。

地域の活動団体・関係機関と連携・協力しながら実施した多くの実践活動の中には、今後の進展に期待が持てるものが複数みられ、委員会の使命のひとつである地域とのつながりの前進を感じるとともに、改めてその大切さを実感しています。

第9期阪神南地域ビジョン委員会の夢会議では、高校生たちとともに、未来新聞を作成しました。高校生ならではの、独創的な発想や、物事のとらえ方は、実践活動を行っていく上で、非常に良い刺激となりました。

私にとっても、委員の皆さんとともに楽しみながら活動できたことや、折々の達成感など貴重で有意義な時間が過ごせたことはこれから活動していく上で、大きな財産となりました。

「阪神市民文化社会ビジョン」を実現し、さらなる前進に向けて、この活動記録集でこれまでの委員会活動の変遷を知っていただき、これからの活動に役立てていただければ幸いです。

今後も委員として活躍される皆さまが、実践活動され阪神南地域がより魅力あふれる街になることを願っています。



令和2年3月

阪神南地域ビジョン委員会 委員長 佐久間 壮仁

目次

■ 専門委員・アドバイザーからのメッセージ	1
■ 活動の記録	
● 各グループの活動	3
・ アート・カルチャーグループ	4
・ 夢ひろばグループ	8
・ こどもひろばグループ	12
・ チャレンジユニバーシティグループ	16
・ 緑豊かで安全な街づくりグループ	18
・ グローバルコミュニケーショングループ	22
・ 元気な街づくりグループ	26
● 企画部会・連絡調整会議・広報部会	30
● 阪神南地域夢会議	52
● 他地域との交流	54
● 専門委員等による講演・研修	55
■ 参考資料	
・ 阪神南地域ビジョン委員会のあゆみ	57
・ 阪神南地域ビジョン委員会設置要綱	59
・ 第9期阪神南地域ビジョン委員会名簿	62

専門委員・アドバイザーからのメッセージ



平素は魅力あふれる阪神南地域づくりに多大なるご尽力を頂き、誠に有難うございます。この2年間の活動は皆さんにどのような変化をもたらしたのでしょうか？仲間が増えた方、次の目標ができた方、手応えがあった方、素敵な出逢いもたくさんあったことと思います。反面、ままならないことや課題も見つかったことでしょうか。地域活動はともすると「好きなことを好きなだけやればいい」と思われがちです。もちろん楽しくなければ続かないのですが、このビジョン委員会の活動は、名前の通り「ビジョン」を描くための活動です。その実現のために様々な支援を得ることができる仕組みになっていました。活動費やセミナー、そして私たち専門委員・アドバイザーです。この2年間、専門委員とどのような活動を創ってきたのでしょうか。皆さんが任期満了後も、私は阪神南地域にいます。大活躍の傍に寄り添い、伴走させて下さい。今後の更なるご活躍を心から願っております。

東 朋子（特定非営利活動法人コミュニティ事業支援ネット理事長）

第9期の委員の皆様、任期満了おめでとうございます。

ほんの少し前に第8期のメッセージを書かせていただいたのですが、二年間は、あっという間に過ぎて行ってしまいました。

このような思いとは別に、私が専門委員を仰せつかって以後、一番思い出深い出来事が 9期でありました。

それは、第8期の「自然と共生するまちづくり」と9期の「緑豊かで安全な街づくり」の委員さん達と一緒に、尼崎二十一世紀の森で育成中の黒松 2500本のうちの二本を、平成31年2月23日に西宮神社の境内に植樹させてもらったことです。

ご存じのように、西宮神社は町のど真ん中にあり、南は国道43号線、北側は阪神電車がすれすれに走っていますが、大きな社叢を護っています。

昔、鳴尾の漁師が、えびすさまを自宅でお祀りしていたところ「西の方に良い宮地がある」との御神託により、現在のところに遷し祀られたのが、西宮神社の起源として伝えられており、植樹のことは、黒松とえびす様との1000年振りの再会として新聞各紙に報道されました。

2500本のうちの二本だけのことですが、このことは「自然と共生するまちづくり」や「緑豊かで安全な街づくり」の象徴的な出来事であったと思っています。

武庫川の治水機能の向上のため、下流鳴尾付近の黒松の伐採が計画されたことに対して、8期の委員さんが、由緒ある黒松の遺伝子の保全を目的として、球果（松ぼっくり）から種子を採取、発芽、育成し、尼崎二十一世紀の森で苗を育てていたことや、その苗を鳴尾ゆかりのえびす様の神社の境内に植樹させてもらったことは、「新しい公」であるビジョン委員だから出来たことではないでしょうか。

現在、8期の委員さんも9期の委員さんも、定期的に神社の境内へ赴いて、害虫の駆除などの世話をし、小さな松の成長をみまもっています。

9期では「緑豊かで安全な街づくり」以外のグループの方もいろんな活動をしてこられたことでしょうか。



今後、ビジョン委員として活動を続けられる方も、卒業して地域の社会的な活動を続けられる方も、ビジョン委員会で身に付けられた「新しい公」の考え方を持って、阪神南の豊かな文化、自然とそれらに対する我々の記憶を次世代に伝えて行っていただきたいと思っています。ご活躍をお祈りしています。

小西 巧治（西宮芦屋研究所副所長）



第9期の活動、おつかれさまでした。ビジョン委員としての活動はここで一区切りですが、これを契機にさらに活動を広げていってほしいと思います。活動が始まる時期に私のほうから、これからの社会は共感でつながるネットワークで動かしていくことが大事というお話をさせていただきましたが、活動を通じて共感者が増え、ネットワークは広がったのでしょうか。自己評価を行ない、よかった点はさらに伸ばし、課題は解決に向けての新たな工夫をすることで乗り越えていってもらえればと期待します。異なった考えも大切に、ゆるやかにつながっていく、それがネットワーク活動では重要です。関わる人々が自発的に自分のペースで活動していく、そんな活動をこれからも続けて欲しいと願っています。

久 隆浩（近畿大学総合社会学部教授）

地域社会が少しずつ動いきたと、10年以上もこの活動に参加させていただいているなかで感じた一年でした。新しい世代の方々が社会課題や地域課題に真摯に取り組む動きが、街の風景へと展開し始めました。この動きこそ大切に、そして次世代に方々から、私は学んでいきたいと感じました。皆さん本当にありがとうございました。



三宅 正弘（武庫川女子大学生生活環境学部准教授）



9期ビジョン委員会の皆様が、2年間活発なグループ活動を展開して頂き、ビジョン委員会が若返ったようにお見受け致しました。

「未来に向かって」日々の生活の中で欠けている物は無いか、何が必要としているか等々を考えますと、行政に頼るばかりでなく明日に向かって進んでいく力が大切になって居るのでしょう。

人口の減少、高齢化への不安をご自身の未来像と考えて頂く時期かと思っています。9期の皆様が活発に活動し、思いの丈を下さっている事有難く感謝しております。

木村 和子（第5期・第6期阪神南地域ビジョン委員長）

各グループ の活動



アート・カルチャー グループ

行動目標と主な取り組み方

【行動目標】

多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる

【主な取り組み方向】

その活動に取り組もうと考えた理由・背景を、ビジョン実現の観点から写真・絵画の芸術を通じ阪神南地域の活性を推進する。

活 動 内 容

【主な取り組み内容】

平成 30 年度

1 関西地域の有名な 名所・遺産を巡ろう、バスツアー

日 時：平成 30 年 11 月 20 日(火)
行 先：太陽公園(姫路市)、法華山一乗寺(加西市)、播州清水寺(加東市)
参加者：46 名

当初の目的通り関西地域の有名な 名所・遺産を巡りました、また紅葉も最高の条件でした、特に写真専門家の永田徹先生からバス乗車中に事前に収集いただいた写真を説明しいただき三ヶ所の見方、楽しみ方をわかりやすく教えていただき、全員がそれぞれに楽しみ無事帰宅いたしました。



2 ふれあいバスツアー—作品講評会

日 時：平成 30 年 12 月 22 日(土)

場 所：リードあしや

参加者：21 名

出展数：3ヶ所で計 90 点

バスツアー参加者が1ヶ所2点出展し画題、番号付け自分の作品を除き2点を選び投票した。各自選んだ作品番号を集計し、投票点数の多かった作品から研究講評を行った。点数の多かった作品から選んだ方、選ばなかった方それぞれにその理由を述べいただき夫々が意見を交わし良い、悪いの結論は出ませんが非常に参考になったとのことでした。

続いて専門家の永田先生から夫々の良い、悪いの作品を選挙いただき、その説明を教えていただいた。

3 第 12 回阪神南 ふれあい美術展

日 時：平成 31 年 2 月 26 日(日)

～3月3日(日)

場 所：西宮市立市民ギャラリー

出展数：

出展数	写真	絵画	合計
尼崎市	7	12	19 数
西宮市	43	58	101 数
芦屋市	36	6	42 数
宝塚市	23	1	24 数
その他	25	3	28 数
計	134	80	214 数

来場者：1,989 人

出展者の皆さんをはじめ協力いただいた多くの方々のおかげにより第 12 回ふれあい美術展を開催することができました。市民の皆様のお応募作品 214 点、ハナヤ勘兵衛氏の遺作 10 点、前年秋に実施いたしましたふれあいバスツアー作品 10 点が会場に展示されました、ご来場者も約 2,000 名となり作品を介し楽しい 6 日間となりました、今年は写真の数を増やすやすために西宮市内の一団体に協力をお願いいたしましたので絵画を 3 階へ、写真を 2 階へと変更しましたので多少の戸惑いがあったかとも思いますが、盛大に皆様と楽しむための手段とご理解下さるようお願いしました。

恒例の講評会も大変な人気があり、絵画は羽田英彦先生、写真は高岡ヒロカズ先生から丁寧な講評をいただき出展者の方々、一般の方々にとって今後の創作活動に大きな励みになったと思います。



令和元年度

4 湖東三山(東近江市)の紅葉と古刹を巡ろう、ふれあいバスツアー

日 時：令和元年 11 月 19 日(火)

行 先：百済寺、金剛輪寺、西明寺

参加者：36 名

当初運営上の問題で 28 名中型バスを予定しましたが、36 名となり大型バスに変更。三山共に紅葉は最高であり堪能しました。予定通り 18 時全員無事帰宅しました。





5 ふれあいバスツアー作品講評会

日 時：令和元年12月20日(金)

場 所：リードあしや

参加者：13名

出展数：3ヶ所で計48点

バスツアー参加者が1ヶ所2点出展し画題、番号付け自分の作品を除き2点を選び投票した。各自選んだ作品番号を集計し、投票点数の多かった作品から研究講評を行った。

点数の多かった作品から選んだ方、選ばなかった方それぞれにその理由を述べいただき夫々が意見を交わし良い、悪いの結論は出ませんが非常に参考になったとのことでした。

続いて専門家の永田先生から夫々の良い、悪いの作品を選択いただき、その説明を教えていただいた。

バスツアー参加者を少なくしたこと、開催日を金曜日としたことにより、前回に比べて参加者が減少した。



6 第13回阪神南 ふれあい美術展

日 時：令和2年2月25日(日)

～3月1日(日)

場 所：西宮市立市民ギャラリー

出展数：

出展数	写真	絵画	合計
尼崎市	12	7	19 数
西宮市	42	46	88 数
芦屋市	30	6	36 数
宝塚市	14	2	16 数
その他	26	11	37 数
計	124	72	196 数

出展者の皆さんをはじめ協力いただいた多くの方々の支えにより、第13回ふれあい美術展を開催することができました。市民の皆様のお応募作品124点、ハナヤ勘兵衛氏の遺作10点、前年秋に実施いたしましたふれあいバスツアー作品10点が会場に展示されました。今年も、写真を2階に絵画を3階に展示いたしました。沢山の出展者、またご来場の方々が多くなり盛大に皆様と楽しむための手段とご理解下さるようお願いしました。恒例の講評会も大変な人気があり、絵画は羽田英彦先生、写真は高岡ヒロカズ先生から丁寧な講評をいただき出展者の方々、一般の方々にとって今後の創作活動に大きな励みになったと思います。

特に今年は活動できるグループ員が減少したことにより絵画の担当が不足になり絵画に集中しご協力いただいた方々にお礼を申し上げます。



活動の評価・総括

ビジョン委員会の発足後第9期を数えグループの種類も多様化されると同時に変化の激しさを感じ当グループのメインでありますふれあい美術展も第13回目を開催するに至った。誰でも作品の出展ができ、出展全点が展示され、「賞」を意識することなくその努力や成果を発表し、ふれあいの場として気軽に芸術と親しむことができること、毎日が日曜日を払拭しつつでも楽しむ目的を持てること、さらに専門家の先生による懇切丁寧な講評会が最終日に開催され、出展者のレベルアップにもつながることが魅力となり、ふれあい美術展を楽しみにくれる。

実際にふれあい美術展楽しみにしている人も年々増えている。

写真作品は第6回から展示を始めたが当初、作品が集まらず苦慮したが、芦屋写真協会、あしやY0、倶楽部写楽会、第8期からはハナヤ勘兵衛氏の遺作展示協力により作品の出展数も増えるようになった。

高齢人口の増加による引きこもりがちになる人達の趣味として生きがいになれるなら今後も進めるべきです。

ふれあいバスツアー、ふれあい美術展等同じような催事をされているのでそのような団体に合流してはどうかとの話を時々耳にしているが勝ち負けの付く団体では高齢者の合流は非常にむづかしいと感じる。従ってボランティア的な集団が必要と思う。

今後の課題・取り組み方向

ビジョン委員会のグループを決定するのに方向性・参加人員・参加応援等勘案しどのようなグループが必要なんだろうか、また現時代合っているのかどうか少人数でもよい新しい時代の取り組みとその結果と効果の予想、また古い伝統を持ち多くの人達が楽しめる効果の予想、いずれも必要と思う。

第10期のビジョン委員を募集する申込書

が配布されているので、ビジョン委員会が継続することとなったと考えられる。是非グループ名が変わってもふれあい美術展は継続していただけることを希望します。

マンネリ化との批判もあるが、出展人員、ご来場者の人達が集う催事が立ち上げられるのか、古くと継続性も必要と思う。ビジョン委員OBとして必要とされるなら協力は惜しみません。

運営体制

代表：祭原一郎

副代表（代表代行）：飯田敏郎

副代表：大川辰雄、木嶋祥智（広報担当兼務）

委員：桑田敬司、阪上哲夫、星野剛一、湊口護

夢ひろばグループ

行動目標と主な取り組み方

【行動目標】

自律と協働による温かいコミュニティをつくる。

【主な取り組み方向】

年齢や障害の有無にかかわらず、お互いを尊重しあい、その人らしく生きていける温かいコミュニティを作る為、婚活や高齢者の居場所、防災をテーマにした多世代交流のイベントを開催した。

活 動 内 容

【主な取り組み内容】

平成 30 年度

1 100色婚活（第3回）

日 時：平成 30 年 12 月 15 日（土）

場 所：木口記念館 3F 大会議室

参加者：6 名

お菓子の家を作りながら交流し、その後ケーキと紅茶で歓談するイベントを開きました。参加者は、会の終盤になっても中々緊張が取れない様子でしたが、最後にスタッフが、インタビューに割り込むと、一転、打ち解けた雰囲気になり、会の終了後、近所の居酒屋で話の続きをする程、6人全員が仲良くなりました。



2 オレンジ・ビジョン寄席

日 時：平成 31 年 3 月 13 日（水）

場 所：エルホーム芦屋

（地域交流スペース）

参加者：90 名

「消費者詐欺を易しく紐解く」と特殊詐欺の注意喚起を含めた落語会を開きました。しかし、参加者の多くは、消費者詐欺とは関係なく純粹に落語を聞き来られたようです。落語を聞いて、お茶を飲んで楽しく過ごす、これが目的だったようです。落語でほぐれた後の茶話会では話が弾み、知合い同士の参加者も一人で来た人もテーブルの中ではお互いのことを話し、笑顔で帰って行かれました。



令和元年度

3 100色婚活 (第4回)

日 時：令和元年7月6日 (土)
場 所：ライフサポートステーション
(カフェ・ブーケ)

参加者：8名

参加者は男女各4人で、今回は「異性とお洒落なカフェで食事をする時も気負う事なく、スムーズな対応をする！」を目的に会場を選びました。

3時間余りのプログラムの中では、緊張を取るために、テーブルマナーやテーブルフラワーの講習会を盛り込みました。しかし、食事が始まってからも緊張した状態が続き心配しましたが、お腹が膨れるにしたがって会話も弾み、最終的には、みんなで連絡先の交換をし、帰途につきました。

簡単な体操と防災ゲームで盛り上がったところで、おやつタイムのかき氷を食べたので、参加者同士の話は弾み、大いに盛り上がりました。



4 オレンジ・ビジョン夏祭り

日 時：令和元年8月14日 (水)
場 所：エルホーム芦屋
(地域交流スペース)

参加者：70名

近隣の作業所からの参加もあり、障がい者、高齢者、年少者、地域のボランティアの人達と当たり前地域で生活する人々の縮図のような形でイベントを進行することになりました。

5 災害時対応セミナー

日 時：令和元年11月2日 (土)
場 所：リードあしや

参加者：50名

防災倉庫の使い方等の説明後、ワークショップでは、防災倉庫に入っている組み立て式の段ボールベットや、新聞紙と段ボールを使って、スリッパ、ポンチョ、簡易トイレなどを作った。今回は、主催ではなく

協力という形で関わった為、他のグループと協力しながらイベントを開催する長所、短所も見えてきた。



ベントにも係わらず、車いすや杖をついて参加して下さいました。その方々の友達を作りたいという強い思いに応えることが出来るよう、誰もが楽しめる企画を続けていきたいと思ひます。



6 100色婚活 (第5回)

日時：令和元年11月23日(土)
行先：尼崎城・寺町・三和商店街
参加者：6名

今回は尼崎の名所を訪ね歩きながら、おしゃべりや買い物を楽しむイベントでした。身体的にはハードルが高いイ

7 オレンジ・ビジョン

ボッチャを楽しむ会

日時：令和2年2月12日(水)
場所：エルホーム芦屋
(地域交流スペース)

参加者：30名

パラリンピックの競技でもあるボッチャを通じて、老若男女、障害の有無を問わず、みんなで体を動かすことを楽しんでもらう。楽しい体験が体を動かすきっかけや、外出のきっかけになり、日常を元気に過ごしてもらう。



8 100色婚活（第6回）

日 時：令和2年3月7日（土）
場 所：木口記念館 多目的ホール
参加者：6名

今回はホワイトデーを前に、いつもは異性に対して消極的な人が勇気をもってアプローチできるようなイベントを目指しています。お菓子作りをしながら交流をして、完成したお菓子をプレゼントする。友達作りは、まずは相手とのコミュニケーションから。会話以外にも相手の人柄ややさしさに触れることが出来るイベントを作ります。



活動の評価・総括

前期からの引継いだ活動を、9期の委員によって発展させたこと、他のグループからの応援や中間支援団体との協力により広く地域

交流ができたこと等、新たな試みを持ちながらの2年間でした。結果については、満足できる点と取組むべき課題を残した部分がありますが、今後の地域での活動に生かしていきたいと思います。

「100色婚活」に関しては、回を重ねて一歩ずつ地域に根付いた活動になってきたように思います。

今後の課題・取り組み方向

今期は、ビジョン委員会が主催となってイベントの企画、開催をしてきましたが、今後は参加者が自らイベントについて考え、企画を出せるぐらい地域に根付いた活動を目指したいと思います。

運 営 体 制

代 表：木村由香里

副 代 表：朝可南子

広報担当：松本和久

委 員：内田敬 岸本武志 佐久間壮仁

杉田伴代 多賀京子 田中一行

田中由希 富園孝子 中島和美

古塚万理 前田裕保 山田丈夫

こどもひろばグループ

行動目標と主な取り組み方

【行動目標】

自律と協働による温かいコミュニティをつくる

【主な取り組み方向】

古き良きコミュニティに代わる、誰でも気兼ねなく入れる子どもの「居場所」をつくる。

活 動 内 容

【主な取り組み内容】

平成 30 年度

1 見学・調査[ハローワークイベント by らいとぴあ 21(箕面)]

日 時：平成 30 年 9 月 22 日 (土)
場 所：箕面市キューズモール
参加者：3 名

働いて報酬を得る疑似体験で「お金」の意味や価値を体得できる子ども向けイベント。案内アナウンスや受付などの仕事をして報酬を得ることができ、近隣の一部店舗で金券のように使える。学校や学年が異なる子どもたちが仲良く仕事している時間は、初対面のお母さん達の会話が弾む場であった。

2 講座・研修[つどい場講座]

日 時：平成 30 年 10 月 3 日 (水)
場 所：西宮市市民交流センター
参加者：約 50 名

西宮市社会福祉協議会主催の「つどい場の作り方」を学ぶ講座。I 部「新しい地縁社会の作り方」を浅見雅之氏が講演。地縁社会の新しいかたちが「つどい場」と説明されたが投影資料は「居場所」。II 部では 3 団体の事例発表。「居場所」の 3 要素は「目的を果たせ

る」、「安心感が得られる」、「役割がある」。それらを満たす「人」、「活動」が「居場所」。

3 見学・調査[子ども食堂「めぐみキッズ」]

日 時：平成 30 年 10 月 12 日 (金)
場 所：めぐみのその幼稚園
参加者：3 名

NPO めぐみコミュニティ(キリスト教の牧師：大橋謙一さんとその家族)が運営する子ども食堂。地域の子供達と家族が集えるあたたかい食堂。事情がある中学生は、運営する「人」を慕い安心感を得ているように見えた。「居場所」は、単に「場所」でなく、「活動」や「人」だとわかってきた。

4 見学・調査[やんちゃんこ]

日 時：平成 30 年 10 月 22 日 (月)
場 所：NPO 法人やんちゃんこ
参加者：2 名

杭瀬地域で居場所を開くなら先輩の意見を伺おうと、20 年以上「やんちゃんこ」を続けながら、尼崎市内で親子向けの居場所づくりに携わっておられる濱田先生に相談した。杭瀬地区なら、「小・中学生や高校生を対象とするか、昼間のお母さんの駆け込み寺的なものとするのか考えてみては」と、アドバイスを頂いた。

5 見学・調査[ぐれいぷハウス]

日 時：平成 30 年 11 月 10 日 (土)
場 所：一般社団法人 office ひと房の葡萄「ぐれいぷハウス」
(尼崎市西立花町)

参加者：6 名

学校でもない塾でもない家庭以外の第 3 の居場所としてこどもの社会的居場所事業及び小学、中学、高校生を対象に学習支援事業をしている。

代表者は、子どもたちに時間無制限で付き合う気概で第 3 の親の役割を発揮して、不登校であっても高校入学させる

ことができる」と語る。

6 講座・研修[こども食堂「現場と開設の基礎知識」]

日 時：平成 30 年 12 月 1 日（土）

場 所：尼崎市立すこやかプラザ

参加者：42 名

こども食堂を運営する場合に必要な基礎知識を得る研修会。最近の食中毒の発生状況や事例を通じこどもの安心安全を保障する知識と、個人情報保護法にもとづく個人情報の取扱いについて学んだ。研修後の座談会で、衛生管理に加え、資金・ネットワーク等々の話題を聞いて、安易にこども食堂を運営できないと感じました。

7 見学・調査[杭瀬古民家]

日 時：平成 30 年 12 月 22 日（土）

場 所：杭瀬古民家

参加者：10 名

今後の活動拠点候補と位置付けられる「杭瀬古民家」を事前調査した。

昭和期の住宅街に位置する築 80 年の木造建物。阪神杭瀬駅から徒歩約 5 分のアクセス。和室の 1 室は炉が切っており、お茶事等のイベントによる多文化交流にも使える。お茶をいただき話すだけでも癒される空間でした。

8 イベント[やんちゃんこ代表「濱田英子先生講演会」]

日 時：平成 31 年 1 月 26 日（土）

場 所：杭瀬古民家

参加者：13 名

「こどもの居場所を杭瀬で実現させるためのアドバイス」と題し、先生が子育てサークルから始められ、時々の参加者のニーズや地域の課題に応じて少しずつ取り組まれた経緯をざっくばらんにお話いただいた。参加者から多岐にわたる質問に答えてもらい大いに勉強になるイベントでした。



9 講座・研修[「高校内居場所カフェを兵庫県につくろー!」]

日 時：平成 31 年 1 月 26 日（土）

場 所：尼崎市立すこやかプラザ

参加者：6 名

高校生が抱える「困り感」を学校の中で解決できれば不登校は防げる。他府県では、先生や親でないオトナ達と学校内で出会う「校内居場所」を設け、「困り感」解消に一部効果を出している。実践者を招き、NPO 法人スマイル広場が研修会を開催。事例報告・討論を通じて兵庫県にも導入しようと訴えた。我々が目指す形態とは異なるが、一つの方法と気づかされた。

10 見学・調査[多文化共生・「こくさいひろば芦屋」]

日 時：平成 31 年 2 月 10 日（日）

場 所：芦屋市立浜風小学校会議室

参加者：3 名

芦屋浜地区に暮らす日本語を母国語としない人たちと市民とが協力して日本語を学ぶ場としてお互いの文化交流を促進する「こくさいひろば芦屋」を見学。外国人の子供・大人が対象で他の居場所とは異なる個性的な「居場所」。小学校施設を有効活用した「興味深い」活動だった。

11 イベント[「古民家 de わいわいクッキング」]

日 時：平成 31 年 3 月 17 日（日）

場 所：杭瀬古民家

参加者：16 名

初めての対外向けイベント。開始直前

に強い雨が降る中、7名が来訪。お好み焼きパーティーを開催。後で、お茶室で茶道体験やゲームを三世代で楽しみ、実家に帰った様な気分。「居場所」は色々準備して作るものだと思っていたが、今回の体験でまったりしたものでもいいという気持ちになった。



令和元年度

1 2 イベント[「杭瀬防災講座Ⅰ(概論編)」] (緑豊かで安全な街づくりグループと共催)

日 時：令和元年6月26日(水)
場 所：杭瀬古民家
参加者：31名

古民家がある杭瀬地区は海拔0mの特別な地域。子供や高齢者が集まる度に、災害発生時の対処に不安を感じていました。今回の講座で防災・減災方法の知識を得て、災害食の試食を体験でき参考になった。講座前に高齢者の大半から諦めモードの発言を聞いたが、講座後は、「自分の命は自分で守る、家族の為に！」と大きく変わったのが印象的でした。

1 3 イベント[「親子友禅体験」]

日 時：令和元年7月15日(祝)
場 所：杭瀬古民家
参加者：17名

グローバル化が進む社会で、自国の文化を知る体験は、将来必ず役に立つはず。そこで、四季を感じられる絵を見ながら友禅作品作りや、茶道をする体験を企画。ストレスの多い現代のこども達や忙しいお母さんには、リフレッシュの時間となりました。当初の募集人数を超える申し込みがあり、4歳~60代ま

での3世代交流もできました。



1 4 イベント[「杭瀬防災講座Ⅱ(台風編)」] (緑豊かで安全な街づくりグループと共催)

日 時：令和元年9月11日(水)
場 所：杭瀬古民家
参加者：30名

昨今の台風で想定外の災害の発生を反映してか、本講座には各地域の連協代表者が率先して参加され自然災害に対する意識の高さを感じました。杭瀬地区は海拔0m地帯で左門殿川が氾濫すれば数分で水没状態になる。一時避難場所として近場の3階以上の建物に逃げられる様に普段から目ぼしをつけておこうと注意喚起があった。

1 5 イベント[「おせち料理とお雑煮作り」] (グローバルコミュニケーショングループと共催)

日 時：令和元年12月28日(土)
場 所：杭瀬古民家
参加者：20名

尼崎市杭瀬市場で買い物して、古民家にてお餅つきし、おせちを作りました。

講師から飾り切り、味付け、お正月のおせち料理の説明を受けて調理開始。調理後、おせちとお雑煮を試食。美味しく、皆笑顔になり、心豊かな気持ちになりました。大人も子供も和やかでおだやかな空気が漂うとても良い時間を過ごせ、三世代交流ができました。

1 6 イベント[「和文化 de 親子国際交流」]

日 時：令和2年1月12日(日)
場 所：吉住工務店 風の工房ホール

参加者：65名

友禅体験、和菓子作り、茶道体験、紙芝居等々盛沢山の催しで、幅広い年代の50名以上の参加があった。兵庫県マスコット「はばタン」も登場、こどもから大人まで「可愛い♡」と大人気。親子はもちろん、講師、スタッフまで笑顔になり、「とっても楽しかった！」と大盛況で国際交流のきっかけ作りも出来ました。



17 イベント[「杭瀬防災講座Ⅲ(避難編)」・浦風小学校との合同避難訓練]

(緑豊かで安全な街づくりグループと共催)

日時：令和2年1月17日(金)

場所：杭瀬古民家/浦風小学校

参加者：23名

3回シリーズの杭瀬防災講座の集大成。2回目までのアンケート結果から、一時避難場所の浦風小学校への避難に加え、小学校の避難訓練行事に地域住民が参加する合同避難訓練を企画。市の関係先、PTA等の協力で実現できた。校長先生から「来年も！」と。地域住民による地域防災活動の第一歩が踏み出せた意義は大きい。

18 イベント[「PTA ビジョン会議 in 阪神南」]

日時：令和2年3月1日(日)

場所：西宮市市民交流センター

参加者：予定60名

大変そう、めんどくさそう・・・というイメージがあるPTA。でも、こども達のためにPTAとして出来ることを前向きに考え、負担を減らし、楽しく実践されている方の体験談を共有しPTAのビジョンを考え、見える化をする会を企画しました。

活動の評価・総括

各位の関心がさまざまである中で、2年間の短期間で統一した「居場所」の形作りは叶わなかった。その過程でグループ活動から遠ざかる仲間がでたことは残念であった。しかし、初年度重点的に取組んだ見学・調査で「居場所」は単に建物やモノでなく「活動」や「人」と気づき、2年間のいろんなイベントを経験し、「多世代間交流」でほっこりできる感覚。それも「居場所」の一つの大きな要素であることがわかってきたことは大きな成果。更に、見学・調査やイベントを実践する過程で「繋がり」という貴重な「人財」を得られたことは素晴らしいことである。

今後の課題・取り組み方向

杭瀬古民家の多世代間交流を継続発展させることが課題。工夫と人財で取り組む。また、「居場所」には直接関係はないかもしれませんが、新しく杭瀬地域に根ざした防災活動の芽が出てきており、地域住民の意思を束ねて継続し、拡大していくことが課題。実を結ぶよう応援し、見守りたい。また、各位が取組まれているさまざまな居場所づくりの地域活動においてもこれから課題がでてくることと思いますが、それらを解決に導く過程でこの2年間で得られた知識と繋がりを生かして解決に導かれることを確信しています。

運営体制

代表：金崎弘樹

副代表：池田悦子、谷村洋人、近沢幸治郎

広報担当：松本 美江子

委員：東 寛和、岩木久子、川西真由美、
神山美絵、佐原由紀子、多賀京子、
土居由紀子、福島 繁、松崎智子、
松田勇祐

チャレンジユニバーシティ グループ

行動目標と主な取り組み方

【行動目標】

自律と協働による温かいコミュニティをつくる

【主な取り組み方向】

阪神南地域がより良いコミュニティとなるために、阪神南を中心に活動する学生たちが、新たな時代において求められる能力を身に付け、より地域の発展に寄与できる人材へと成長することをサポートする。

活 動 内 容

【主な取り組み内容】

平成 30 年度

1 チャレユニビジョン委員会

日 時：平成 31 年 2 月 13 日（水）

場 所：なないろ保育園

参加者：11 名（学生 4 名・JC 4 名）

今回は、3 月のプレチャレンジユニバーシティ開催に向けての最終打ち合わせを行いました。

2 プレチャレンジユニバーシティ

日 時：平成 31 年 3 月 16 日（土）

場 所（場所）：西宮市大学交流センター

参加者：18 名（学生 9 名・JC 6 名）

阪神南地域在住の学生がワークショップを通じてテーマに沿った議論を行い発表しました。2025 年開催予定の関西大阪万博に向けて、尼崎から万博会場を結ぶ海上ルート手法について空港からのアクセスと一本化する必要性などユニークな案が飛び出しました。

令和元年度

3 尼崎一万博沖周遊社会実験企画

日 時：令和元年 8 月 25 日（金）

場 所（場所）：兵庫県立尼崎の森中央緑地（尼崎スポーツの森）
西堀運河臨時乗船場

参加者：100 名

昨年度に開催されたプレチャレンジユニバーシティの結果を具現化すべく、尼崎青年会議所、宮本渡船さんの協力を得て、学生と共に企画段階から構築した水上交通の社会実験を行い、尼崎スポーツの森から関西大阪万博会場沖までを航行し、多くの市民と共に距離の近さや海の爽快感を体感していただくことが出来ました。



活動の評価・総括

今回の活動を評価するにあたっては、チャレンジユニバーシティの一年目の活動を基盤として、二年目に社会実験の企画実施を行ったことに価値があると考えています。

社会実験では、学生達の予想に反して企画と運営には大きなギャップが生じる事を一人ひとりが体感することが出来ました。また、理念のみで人を動かすことの難しさを認識するだけでなく、高度情報社会においてもカバーされていない未知の領域があることを明らかにすることも出来たと考えます。

未来への価値を認識した若者たちは、自立と協働による温かいコミュニティを今後支える大きな存在へとなっていきます。以上より、ビジョン実現につながったと考え総括とさせていただきます。



今後の課題・取り組み方向

今回の9期委員の活動としてチャレンジユニバーシティ部会では、尼崎と芦屋の青年会議所関係者を中心とした委員編成で運動を展開して参りました。このことは、事業を実施するにあたっての人員確保には有利に働きましたが、メンバーの多忙さから日中の会議に参加することに困難な状況が散見される状況となってしまいました。

このため、更に運動を継続発展的に展開していくためには、現在の形ではなく、変化が必要であると考えます。

今後の取り組み方向としては、一般のビジョン委員会メンバーに参加していただく、または私たちが他の部会に参加するような工夫、あるいは、大学生を積極的にビジョン委員に勧誘していく必要があると考えます。



運 営 体 制

代 表：大原隼人

副 代 表：三浦宏太

広報担当：杉原 努

委 員：桑田敬司、後藤康仁、岡本光永

協 力：高木 淳 (尼崎青年会議所)

高木美緒 (芦屋青年会議所)

濱田愛子 (尼崎青年会議所)

増山晋哉 (尼崎青年会議所)

学 生：大野こうき (大阪工業大学3年)

後藤健一郎 (関西学院大学2年)

上地翔馬 (関西学院大学2年)

佐俣友基 (関西学院大学1年)

小野桃子 (神戸松蔭女子大1年)

大西瑠佳 (神戸松蔭女子大1年)

牧田穰 (神戸大学1年)

西郷 亮 (神戸大学1年)

柳 和磨 (神戸大学1年)

緑豊かで安全な街づくりグループ

行動目標と主な取り組み方

【行動目標】

自然と豊かに調和した安全・快適な都市環境を創造する

【主な取り組み方向】

阪神間の自然景観や環境を守ってきた樹木の再生により阪神地域の魅力の向上を目指すと共に、近年多発する災害への備えを市民と共に考え行動する事で地域の防災・減災・縮災の力を増して安全な街づくりを目指す。

活 動 内 容

【主な取り組み内容】

平成 30 年度

1 各市防災担当訪問

日 時：平成 30 年 10 月 29 日(水)
場 所：尼崎市危機管理局災害対策課
・ 芦屋市都市建設局防災安全課
参加者：4名

各市の防災担当部局を訪れ、地区防災計画の聞き取り調査と意見交換を実施。



2 黒松アフターフォロー

日 時：平成 30 年 12 月 11 日(水)
場 所：尼崎市魚釣公園
参加者：5名

平成 29 年台風 19 号で高波被害を受けた公園内の看板を再設置した。堤防からの越波で倒木やフェンスの倒壊など被害が大き

く、復旧に時間がかかり再開できていなかった。



3 防災講座 I

日 時：平成 31 年 1 月 23 日(水)
場 所：尼崎市防災センター多目的ホール
参加者：70名

H30 年は大阪北部地震や台風 21 号など災害が相次ぎ、被災実体験のアンケート調査からその教訓にまとめた。短い直下型地震の影響や同時多発停電・暴風被害などに備える話題と共に、尼崎市災害対策課が災害時の対応や経緯を発表した。



4 西宮神社黒松植樹式

日 時：平成 31 年 2 月 23 日(土)
場 所：西宮神社境内 綱鳥居・東門
参加者：21名

西宮えびす様のご神体を、鳴尾の沖で漁師が引揚げた故事にちなみ、「千歳の再開」として、鳴尾の風景を再現すべく、その遺伝子を持つ黒松の種子を球果から採取した苗木を 2 本、西宮神社に植樹し献木奉納した。



日 時：H29. 7/9・9/18・10/30・12/18・
H30. 3/20・3/29・4/12・4/17・4/23・4/29・

5/4・5/25・6/5・6/13・6/27・7/2・7/7・
7/9・8/8・8/26・11/3・11/17・12/7・12/19・
12/24・H31.1/6・3/8 の計 28 回

場 所：大野山ビオトープ池

参加者：68 名

H29 以来 28 回に渡る作業を実施。

H30.4/29 に池が完成し、通水式を行った。
池に山水を溜め始めて 30 分でアメンボ等
が飛来し、樹木医が生物調査を実施。周辺
の自然環境を調査し、100 種類以上の植生
を確認。その後も生物調査や池の維持補修
を行った。



令和元年度

6 人と防災未来センター研修

日 時：令和元年5月17日(金)

場 所 人と防災未来センター

参加者：8 名

人と防災未来センターの施設で阪神淡
路大震災と東日本大震災について学習し
た。改めて東北の実態と南海トラフ地震の
備えを認識した。



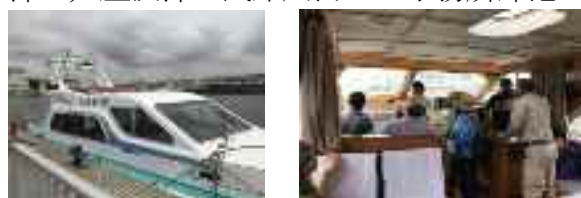
7 港湾防災施設研修

日 時：令和元年6月5日(水)/19日(水)

場 所：尼ロック～芦屋・西宮沖

参加者：23 名

「海から見る防災」として北堀運河より「さ
ちぜ」に乗船⇒尼ロック上陸研修会⇒西宮
沖⇒芦屋浜沖⇒武庫川河口⇒事務所帰港



8 旧左門殿川緑地黒松植樹式

日 時：令和元年6月5日(水)

場 所 旧左門殿川緑地

参加者：20 名

尼崎城は琴浦城として古来黒松の並木が
有名であり、3月にオープンした尼崎城の
南側の旧左門殿川緑地と日本製鐵尼崎製造
場内に合計 150 本の黒松を県民センター副
所長の臨席を見て植樹した。



9 大野山ビオトープ蛍鑑賞会

日 時：令和元年6月22日(土)

場 所：大野山ビオトープ

参加者：10 名

蛍池の生物観察会と夕べを待って蛍の鑑
賞をした。蛍池にはメダカ・カワニナ・マ
ツモ・アサザ等固有種を移入し、外来種は
入れないようにした。イノシシやシカその他、
タヌキなどの動物も見られ、モリアオガエ
ルやアマガエルも繁殖している。



10 杭瀬防災講座 1

日 時：令和元年6月26日(水)

場 所：杭瀬古民家

参加者：26 名

杭瀬南新町の古民家で「こども広場」と
コラボして防災講座を行った。「洪水・その
時どうする」として洪水の原因や警報など
の段階や被害のレベルと避難の方法等を講
義した。



11 消防司令センターと防災講座

日 時：令和元年7月11日(木)

場 所：尼崎市防災センター

参加者：70名

I部 消防展示室 尼崎市・伊丹市消防指令センターの見学と地震体験コーナーを案内。
II部 兵庫県防災専門教育専門員 田中健一氏による防災講座「災害で死なない為や生き残る為には何が必要か」をテーマに講演を開催。



12 杭瀬防災講座2

日 時：令和元年9月11日(水)

場 所：杭瀬古民家

参加者：30名

杭瀬南新町の古民家で「こども広場」とコラボして防災講座を行った。台風に関わる大雨・高潮・高波・風水害についての被害や避難の他、情報の入手等を講義し、防災マップ作成の必要性や地域の共助を訴えた。



13 大野山観月会

日 時：令和元年9月15日(木)

場 所：大野山ビオトープ

参加者：9名

中秋の名月を愛でるという趣旨で、ビオト

ープの生物観察を含めて開催し、オカリナ・オペラ・ハーモニカと満月の出る時間まで音色を楽しんだ。

H31. 4/28・R1. 5/16・6/11・6/22・8/21・9/9・9/15・12/23 の計8回 計34名



14 武庫川廃線敷紅葉狩

日 時：令和元年11月13日(水)

場 所：武庫川廃線敷

参加者：4名

130年前に峡谷を穿って作られた名塩～武田尾間の旧阪鶴鉄道の廃線敷が、3年前から都市近郊の峡谷美を味わえるハイキング道として一般開放された。桜と紅葉で有名であり、紅葉を満喫した。



15 県災害対策センター研修会

日 時：令和元年11月20日(木)

場 所：兵庫県災害対策センター

参加者：11名

災害対策センターは、阪神・淡路大震災を教訓として整備され、災害時に各市町村情報から判断し、避難警報等の具体的な指示を発令する。兵庫県の中核の防災センターを見て学び研修した。



16 防災講座II

日 時：令和元年12月6日(金)

場 所：尼崎市防災センター

参加者：54名

「救える命と心を守るために」として、東日本大震災や熊本地震の被災地経験から、現地での生の体験をライフサポート松岡由美氏から伺いました。



17 尼崎市防災講座

日 時：令和2年1月13日(月)

場 所：尼崎市防災センター

参加者：50名

朝来市から地区のコミュニティと結びついた行政との橋渡しをしている実績の報告と尼崎市の災害時の地区への支援の取組みに対する講演及び質疑があった。人口の少ない朝来市は顔の見える関係を作りやすいが、多い尼崎市ではなかなか難しい。



18 杭瀬防災講座3 避難訓練

日 時：令和2年1月17日(金)

場 所：杭瀬古民家・浦風小学校

参加者：35名

予め避難経路を示しておいた上で、杭瀬南新町地区住民による避難訓練を行った。一次避難所である浦風小学校へ小学生や近くの養護施設のメンバーと共に行動した。



活動の評価・総括

阪神南の景色のシンボルとして、黒松の遺伝子の保存再生を企画し、西宮神社へ2本、尼崎城南旧左門殿川沿緑地へ150本以上の植樹を行った。双方とも地元などから歓迎され、H29年に植樹した魚釣公園や流域下水道へのフォローと共に、継続的に活動をしている。

H30年度に多発した災害への備えとして、住民への防災講座を複数回開催すると共に、消防司令センターや県災害対策センターの研修会や海から見る港湾防災設備の見学研修等を行い。減災・縮災への意識向上を図った。

自然共生と防災の両方の目標に対して70以上の多くの行事を行い、活動参加者も委員だけで延414名、一般も含めると計1,100名と、広く理解され賛同されたと言える。

今後の課題・取り組み方向

地区防災計画の策定サポートは、地区住民との連携が整わず断念し、渚回廊の巡回写真展も、場所の確保等十分な準備が整わず進められなかった項目がある。しかし、自然との共生としての黒松遺伝子保存やビオトープ蛍池の再生は今後も継続可能である。写真展も規模・場所を変えて継続である。また、各種防災講座を継続して、減災・縮災の学習をし、一般市民と知識共有することで知恵に転化出来ると考える。地区住民の防災意識の向上を図ることが大事だと考える。

運 営 体 制

代表：大島勲 副代表：黒田和伸

広報：村田実 会計：赤沼有季

委員：浦富健二、木村俊二郎、持家照子

篠原弘、高橋正晴、竹嶋政宏、丹波光夫
西牧力、村上東明、和田壽子



グローバル コミュニケーション グループ



行動目標と主な取り組み方

【行動目標】

豊かさにぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する

【主な取り組み方向】

海外からの訪日客が増えるなか、大阪や京都に集中しており、もっと兵庫県の魅力を地元住民から発信し伝えたい。国際交流や地域活性化を促し、おもてなしを実現する。阪神南地区の大阪からの立地条件・関西空港からのアクセスの良さ、商店街、尼崎城、など地域の魅力を活用し、にぎわいを創出する。



活 動 内 容

【主な取り組み内容】

平成 30 年度

- 1 尼崎市民祭りブース参加
尼崎城をおりがみで盛り上げよう！
おりがみのお船でボートレース



共催：尼崎城盛り上げ隊

日 時：平成 30 年 10 月 8 日（月）

場 所：尼崎中小企業センター

参加者：40 名

グループのイベントとして最初の取り組みのため、他団体との共催をすることで、慣れていけるよう参加協力しました。子供と高齢者が一緒に楽しめる良い企画となりました。



2 阪神尼崎駅周辺B級グルメツアー



日 時：平成 31 年 3 月 30 日（土）
行 先：阪神尼崎駅→寺町→三和商店街
→尼崎城
参加者：13 名

尼崎城から寺町を通り、阪神尼崎駅前商店街を案内しながら、商店街でつまみ食いしながら歩く、尼崎の歴史とグルメを堪能してもらうまち歩きを実施。寺町を通り、三和商店街へ抜け、最後は尼崎城を見学。尼崎駅界隈では歴史と、グルメと、城という3つの魅力を一気に堪能でき、短時間で観光しやすいことがわかりました。



令和元年度

3 芦屋スイーツとパンめぐり



日 時：令和元年 5 月 11 日（土）
行 先：阪神芦屋駅界隈
参加者：8 名

阪神芦屋駅界隈は、スイーツとパンのお店がひしめき合っており、職人たちの登竜門の場となっています。ハイレベルだがお手頃価格なスイーツとパンを、買い食いしながら巡り歩き、芦屋の魅力をおなかいっぱい堪能できました。



4 初心者限定尼崎競艇体験



日 時：令和元年6月22日（金）
場 所：ボートレース尼崎
参加者：10名

尼崎市職員の方からの、レース、舟券の買い方の説明などがとてもわかりやすく、実際に楽しくレースに挑戦することができました。室内より観戦できるため、クーラーの効いた部屋で、高齢者、子供なども楽しく観戦することができ、競艇のマイナスイメージを払拭でき、競艇のスピード感も体感でき、普段では味わえない体験ができたという好評でした。

5 尼崎サマーセミナー



日 時：令和元年8月3日（土）
場 所：琴ノ浦高校
参加者：23名
日本酒と蔵人と/講師：湊洋志

兵庫県の日本酒の魅力について、現役の蔵人から話をしてもらった。酒蔵での現場の写真や、蔵の中での仕事内容、進め方などをスライドを使って説明してもらい、酒造り歌なども歌ってもらいました。皆さん興味深く聞いていただき、灘五郷の魅力を伝えることができました。

6 むつさんと巡る尼崎



講 師：陸奥賢（むつ さとし）
日 時：令和元年9月21日（土）
行 先：尼崎駅→尼崎城→寺町→三和商店街

参加者：14名

尼崎市の歴史や文化について、歴史の本にのらないような内容を、資料を交えてとても楽しく説明いただけた。商店街や店舗での購入なども楽しみ、歴史を知ることによって、より深い内容となった。特に講師の話が楽しかったと笑いの絶えない内容となった。



7 おせち料理とお雑煮イベント 『みんなでお正月の準備をしよう』



日 時：令和元年 12 月 28 日（土）
行 先：杭瀬駅→杭瀬商店街→
杭瀬古民家
参加者：20 名

杭瀬商店街でお正月前の賑わいを体験し、おせちの買い物をしてから、古民家へ移動。古民家にてベテランおばあちゃんのおせちの技を見せていただき、その美しさに関心しきりでした。お餅は自分で丸め、お雑煮の中に入れ、子供も大人も楽しめました。失われつつある、家庭での伝統的な日本の衣食住を伝えていくことも必要だと感じました。来年もしてほしいとの声もありました。



活動の評価・総括

「豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する」というビジョンを目的に活動を行ってきましたが、初めてのグループ活動のため、企画立ち上げ、実行までの初動が遅くなってしまいました。しかし一度やってみればその後はスムーズに行えるようになり、多種多様な企画を実行しました。そしてたくさんの方の阪神南地域の魅力を発掘し、発信することができました。皆さんの知識と、自分のまちの魅力を知ってほしいという思いが溢れた、素晴らしい企画を実践することができました。これからも、地元だから知っている、地元ならではの魅力を発信していきたいと思っています。

今後の課題・取り組み方向

外国人の参加も促し、インバウンド効果と呼び込むことも目的としていたが、なかなか外国人を呼び込むことができなかった。大学との連携や、ホームステイの協力などの案もあったが、実行には繋がらず、難しいことがわかった。今後の課題として、多言語での発信、SNS の活用、地元の外国人との交流を活性化させ、定住外国人の方へも地元の魅力を知ってもらおう努力をしたいと考えています。継続的な交流、活動をすることで、外国人との信頼関係を築き、地域内での国際交流などにつながるきっかけができればと思います。

取り組み方向として、今回実行した内容をブラッシュアップさせ、日本人も外国人も一緒に楽しめる多様性を考えた活動に発展させたい。

運 営 体 制

代 表：緒方弘美
副 代 表：川西真由美、生駒朋己
広報担当：殿村愛一郎
委 員：安藤菜月、石井汰市、黒川直紀、
齊藤美雪、持家照子、柴原 誠、
中 菜美子、中原 美智子

元気な街づくりグループ

行動目標と主な取り組み方

【行動目標】

豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する

【主な取り組み方向】

みんなの笑顔が元気な街づくりのもと、とのコンセプトで、笑顔を創造する街づくりに取り組む。

阪神間の歴史、文化、産業にスポットをあて、地域の魅力を、歩いて巡るまちあるきツアーを実施する。

活 動 内 容

【主な取り組み内容】

平成 30 年度

1 尼崎城下名店の旨いもの巡りと史跡探訪

日 時：平成 31 年 2 月 20 日（水）
行 先：阪神大物界隈の名所旧跡、菓子屋等の名店、育成調理師専門学校、尼崎城

参加者：62 名

尼崎はお城の再建や関西で住みやすい街No.1 に選ばれるなど、良きイメージが出来上がりつつある。尼崎城の開城に合わせ、美味しく、お土産にも最適な名物の紹介と、名所旧跡のお話しをしながら散策を楽しんでいただいた。



2 阪神南のスイーツ味めぐり

日 時：平成 31 年 2 月 26 日（火）
行 先：アンリ・シャルパンティエ、ホテルヒューイット、育成調理師専門学校、エーデルワイスミュージアム

参加者：19 名

育成調理師専門学校の協力のもと、人材の育成現場、スイーツづくりへの取り組み、卒業生の販売している名店のスイーツ味めぐり訪問など、スイーツをより深く理解し、美味しくいただくための見学を実施。明日への元気を頂いた。



3 海から眺める阪神南

日 時：平成 31 年 3 月 6 日（水）
平成 31 年 3 月 13 日（水）中止
平成 31 年 3 月 20 日（水）
行 先：尼崎港管理事務所、尼ロック～新西宮ヨットハーバー（船内からの見学）

参加者：26 名

当初、新西宮ヨットハーバーで下船し、ミニ講座と食事の後解散する計画だったが、台風被害のために着岸できないことが直前になって判明。計画変更を余儀なくされた。更に、13 日開催の回が高波のため中止となり、参加者への連絡に追われた催しだった。

参加者には、尼ロックの役割、重要性を認識していただき、県の防災への取り組みを紹介することができた。



令和元年度

4 西宮の文化と歴史を訪ねて

日 時：令和元年8月9日（金）
行 先：大手前大学史学研究所、辰馬考古資料館、西宮市立郷土資料館
参加者：15名

西宮の文化や歴史を研究・紹介する施設を、学芸員の解説を聴きながら見学する貴重な時間だった。参加数が想定より少なかったが、じっくりと見学や講義を受けて頂くことができた点、かえって少人数でよかったとも思う。応募方法はファックスとしたが、最近ファックス機器を持たれない方も増えている状況を鑑みると、検討が必要だったと思う。またチラシも、より分かりやすいデザインとすること、興味をもつ方にどのようにしたら届けられるのかについて再考が必要と感じた。



5 秋の芦屋散策

日 時：令和元年9月28日（土）
行 先：三条文化財整理事務所、ヨドコウ迎賓館

参加者：27名

天候が心配されたが、日差しも強くはなく、ハイキングには却ってよい天気だった。

郷土史家の藤川氏と市学芸員が同行くださり、解説を聞きながら住宅街を抜け、急坂を登って三条文化財整理事務所を見学。次にヨドコウ迎賓館を目指した。道中の公園では地震による水害などの興味深い説明も頂いた。ヨドコウ迎賓館では、岩井館長の説明の後、大正時代の建築の粋を堪能した。数人の参加者が、もっとゆつくり館内見学をしたいということで残られ、芦屋川沿いの業平さくら通を散策した後、細雪の石碑前で解散となった。蒸し暑い季節の開催だったが、体調を崩される方もなく、無事に芦屋の街並みをお楽しみいただくことができた。



6 海から眺める阪神南

日 時：令和元年10月30日（水）
令和元年11月20日（水）
行 先：尼崎港管理事務所、尼ロック～新西宮ヨットハーバー～芦屋浜（船内からの見学）

参加者：23名

昨年度に引き続いての実施。昨年度の中止で参加できなかった方にも参加いた

だくことができた。尼崎港管理事務所の職員に阪神南地域の津波対策の仕組みをわかりやすく解説いただき、巡視艇さちかぜに乗船して尼ロックから大阪湾に出て船内から阪神南地域を見学した。特に2回目は快晴に恵まれ、六甲山系の眺望を楽しむことができた。

解散後、希望者のみのオプションツアーで、北堀運河、出あい橋を回り、昼食の後、集合場所の尼崎センタープール駅で解散した。



7 加茂遺跡 弥生のムラ スタンプラリーへの参加（阪神南北ビジョン委員交流）

日 時：令和元年11月30日（土）

行 先：加茂遺跡周辺

参加者：23名

阪神北のビジョン委員とともに、川西市主催のスタンプラリーに参加した。南北地域ビジョン委員どうしの交流を深めるとともに、今後のまち歩きツアー実施の参考とすることができた。

8 環境モデル都市“ZUTTO CITY” 見学会

日 時：令和元年12月3日（火）

行 先：尼崎市立地域総合センター塚口、
JR塚口駅前 ZUTTO CITY

参加者：20名

尼崎市環境創造課が推進するスマートコミュニティの解説と、JR塚口駅前の旧森永製菓工場の跡地に開発された“ZUTTO CITY”の見学会を行った。

尼崎市環境創造課の職員から、市が推進する環境モデル都市アクションプランと、尼崎版スマートコミュニティ認定事業の解説を受けた後、市の認定を受けて建設された“ZUTTO CITY”の現地を見学した。

現地見学に関しては、施設管理をしている野村不動産パートナーズ株式会社と地元自治会の協力のもと、共用部分のみ見学させていただいた。豪華なロビーやキッズルーム、庭園など、参加者全員が目を奪われた。エネルギー管理に関しては関連資料の配布のみにとどまったが、全国に先駆けて実施された取り組みとのことで、もっと注目されてもよいのではないかと感じた。



9 尼崎城ゆかりのらん菓子（らんきん）を作ってみませんか～育成調理師専門学校連携講座～

日 時：令和2年3月21日（土）

行 先：育成調理師専門学校、尼信会館、
尼信世界の貯金箱博物館、尼崎城

育成調理師専門学校の協力を得て、連携講座として実施した。尼崎城ゆかりの「らん菓子」を専門学校生の指導のもと実際に製作した。

その後尼信会館や尼信貯金箱博物館を見学して城下町尼崎の歴史に対する理解を深め、開城1周年を迎える尼崎城を見学して解散した。



運 営 体 制

代 表：鎌田和政
 代表代行：西牧 力
 副 代 表：篠原 弘
 広報担当：拝藤千里
 委 員：池田悦子、池上実知子、岡下真弓、
 北岡 徹、木村俊二郎、島村加代子、
 竹嶋政宏、丹波光夫、野草美千代、
 平脇幸雄、星野剛一、前田俊彰、
 村田勝喜、蛸山洋子

活 動 の 評 価 ・ 総 括

みんなの笑顔が元気な街づくりのもと、とのコンセプトをもって、地域の歴史、文化、産業にスポットを当て、多くの企画を実施した。事前準備を入念に行い、専門家や研究者のお話を聞き、散策するスタイルで見聞を深めることができた。

地域の人々に、住む街やそこでの活動を理解してもらうことで、わがまちへの愛着がわき、自慢できる街にしたいと活動に加わる人が増えていけば、街の活気も増す。街と住民にじっくりと向き合う活動ができたことは良かった。

今 後 の 課 題 ・ 取 り 組 み 方 向

グループ員からは、「活動によって地域外から人が来るようにはならなかった」「地域にお金を落としてくれる方向で街を活性化することができたのか疑問」という声があった。また、グループ員に尼崎市在住者が多く、どうしても尼崎でのイベントに偏りがちになった。

運営体制面でも、「実際に活動できる人が少なかったのは、家庭や仕事の事情もあるとは思いますが、グループの目標や計画が明確でなく、理解されていなかったのが真の原因では」「それぞれの担当者が責任を役割をこなし、代表が全体を見渡すという体制が機能していなかった」という意見が出された。